

1-4 SDGsの構成：ターゲット

SDGsの17目標には、それぞれ具体的なターゲットが付けられている。ターゲットの数は目標によって異なっている。目標17（実施手段の強化）には19個のターゲットがあるが、目標7（エネルギー）のターゲットは5個でしかない。SDGsのターゲットの総数は169である。

ターゲットには目標ごとの番号が付けられている。目標1のターゲットは、1.1、1.2、1.3、目標2のターゲットは2.1、2.2、2.3といった具合である。一方で、同じ目標でも算用数字でなくアルファベットで表記されているものもある。例えば目標1では1.a、1.b、1.cのターゲットも示されている。アルファベット表記のターゲットは全部で62個あり、残りの107個は算用数字で番号付けされている。両者の違いについては若干わかりにくいだが、算用数字のターゲットは各目標の具体的な課題の達成を示し、アルファベットのターゲットはこれら課題の達成を実現するための手段や措置について示されている。例えば、目標1を事例に両者のターゲットを示すと次のとおりである（下線は筆者）。

目標1：あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を終わらせる

1.1：2030年までに、現在1日1.25ドル未満で生活する人々と定義されている極度の貧困をあらゆる場所で終わらせる

1.2：2030年までに、各国定義によるあらゆる次元の貧困状態にある、全ての年齢の男性、女性、子供の割合を半減させる

1.3：各国において最低限の基準を含む適切な社会保護制度及び対策を実施し、2030年までに貧困層及び脆弱層に対し十分な保護を達成する。

1.4：2030年までに、貧困層及び脆弱層をはじめ、全ての男性及び女性が、基礎的サービスへのアクセス、土地及びその他の形態の財産に対する所有権と管理権限、相続財産、天然資源、適切な新技術、マイクロファイナンスを含む金融サービスに加え、経済的資源についても平等な権利を持つことができるように確保する。

1.5：2030年までに、貧困層や脆弱な状況にある人々の強靱性（レジリエンス）を構築し、気候変動に関連する極端な気象現象やその他の経済、社会、環境的ショックや災害に暴露や脆弱性を軽減する。

1.a：あらゆる次元での貧困を終わらせるための計画や政策を実施するべく、後発開発途上国をはじめとする開発途上国に対して適切かつ予測可能な手段を講じるため、開発協力の強化などを通じて、さまざまな供給源からの相当量の資源の動員を確保する。

1.b：貧困撲滅のための行動への投資拡大を支援するため、国、地域及び国際レベルで、貧困層やジェンダーに配慮した開発戦略に基づいた適正な政策的枠組みを構築する。

上記のターゲットのうち、1.1～1.5までは、目標1の「貧困の撲滅」が実現する具体的な

イメージが示される。「1日1.5ドル以下で暮らす極貧層」をなくし、「各国定義による貧困層」を減らせる。そのためには、貧困層に適切な「保護」を提供し、資源への「平等な権利」を確保し、気候変動等への「脆弱性」を軽減させる必要がある。

一方、ターゲットの1.aと1.bは、上記のターゲットの実施促進の手段、具体的には資金確保、及び投資拡大がテーマになっている。他の目標でも、アルファベット表記のターゲットは、「国際協力の強化(2.a)」、「市場情報へのアクセス(2.b)」、「研究開発支援(3.a)」、「能力開発・訓練(3.c)」、「地域コミュニティの参加支援(6.b)」、「インフラ拡大と技術向上(7.b)」などを通じた実施手段や措置の強化が目指されている。